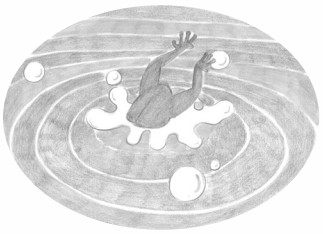
俳　句

1年目 ステップ1

音声はこちら

古池や　かわず飛び込む　水の音

松尾芭蕉



なの花や　昼ひとしきり　海の音

与謝蕪村

よく見れば　なずな花咲く　垣根かな

松尾芭蕉

やせ蛙　まけるな一茶　これにあり

小林一茶

音声はこちら

足が棒になる

足がひどく疲れて思うように動かなくなる。

口が重い

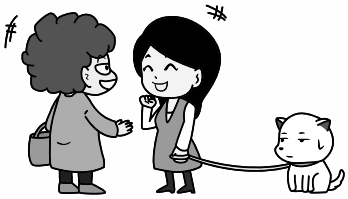
人前であまりしゃべろうとしないこと。

舌を巻く

とても感心すること。

油を売る

無駄話などをして仕事を途中でさぼる。



水に流す

これまでのいざこざなどを、すべてなかったことにする。

音声はこちら

《文節のうた》

さよね　さよね
「さ」「よ」「ね」をいれて　考えよう
「さ」「よ」「ね」をいれて
自然に区切れるとこが文節だ
文節は　文を小さく区切った　一区切り
会話文の文節分けは
かぎかっこが　ないものとして　考えよう
さよね　さよね
「さ」「よ」「ね」をいれて　考えよう

ぼくは　さ
こんど　ね
富士山に　さ
登って　さ
みたいと　ね
思った　よ

文節は意味をこわすことなく、
文をできるだけ短く区切った
一区切りです。
右の例は、六つの文節です。

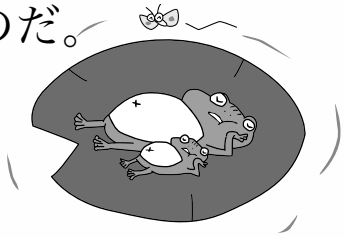
音声はこちら

負けるが勝ち

無理して争うよりも、相手に勝ちを譲った方が結果は得になる。

かえるの子はかえる

子どもの性質や才能は親に似るものだ。



好きこそものの上手なれ

大成するためには素質などの条件も考えられるが、好きであってこそ上達する。

ぬかに釘

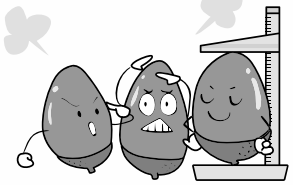
いくら意見しても手ごたえがなく、少しも効果がないこと。

花より団子

風流よりも実利、外観よりも内容をとることのたとえ。

どんぐりの背くらべ

どれも同じ程度で特別優れたものがない様子。



音声はこちら

秋の田の
かりほの庵の
我が衣手は
露にぬれつつ

（天智天皇）

春過ぎて
夏来にけらし
白妙の
衣ほすてふ
天の香具山

（持統天皇）